

Title	水戸天狗黨；徂徠の観たる伊藤仁齋
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.4 (1923. 11) ,p.88(552)- 88(552)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19231100-0088

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

水戸天狗黨

市川村通り府中へ参り申候、松平幡摩守様御城下也、水戸殿御末家二萬石領之由筑波山之しそに相當り、先達浪人一件之節數百人當御城下へ参りおり候よし、町家討れ、外荒米町内焼場六ヶ所有之何れも浪人之所業之よし町人共申聞候には此通り亂妨(暴)被致候へ共夫を制候力もなし少身殿様故苦々敷者之由歎候事に御座候、江戸常府之御侍に而御國へ御下り被成候御侍一人劔術之達人に而浪人亂妨之折見□六人迄切殺其御方も終に打死被成候へ共誰有てすくひ候人もなし惜しき事仕候由。止宿之事問屋へ色々頼み漸々宿取り申候、潮來屋市藏と申者へ止宿仕候、名主木村與惣右衛門を呼行先之様子相尋終夜相語り申候。當宿杯も大破に而障子等なし化物屋敷と申位に御座候、風呂杯は勿論漸々食事了候迄に御座候。給仕之下女より承り候得者先達より家内共も不殘逃げ漸く此頃参り候よし、私家も天狗廿廿人も参りおり此通り荒らし候杯と申聞候。當御國へも天狗十五人御召捕に相成おり候杯と申聞候。何々承り候ても天狗共之暴逆は歎息に相聞申候。夜中雨降り。(莊内藩土石原藤助元治元年十月一日の日記)

徂徠の觀たる伊藤仁齋

莊内藩士水野元朗、疋田進修の兩人荻生徂徠に教を乞ふて曰く、「伊藤仁齋古學と稱し宋儒にまとい不申候所は希世之才に而御座候得共論語計を最上至極宇宙第一と稱し堯舜三代之書又論語の上にある事を忘れ聖人天下國家を治るの道は禮樂而已矣と申事を不存候か固陋之至と奉存候」

徂徠答へて曰く「中庸之道行は徳之基本也是質也禮樂は文也禮樂を以て徳を成就する事聖門之教也文質彬彬として然後君子なり仁齋は中庸之徳行を主として禮樂を知らず禮樂は事なるに理を以て説たるは禮樂を知らず且又聖人之道は國家天下を治むる道といふ事を忘たる故也是等之所尙宋儒之巢窟を不出得申候されども日本には過たる大豪傑也と可被思召候」

(異本徂徠答問書の一節國分生)